

丈創平詩片

有無

エントリア

The background of the entire page is filled with numerous expressive, black brushstrokes. These strokes are primarily diagonal, sloping downwards from left to right. They vary in thickness and texture, with some appearing as solid, dark bands and others as more delicate, feathered lines. The overall effect is one of dynamic movement and organic form, reminiscent of traditional Japanese ink wash painting (sumi-e).

片詩平創丈

有無

エントピア

じょう・そうへい＝356川越市稲荷町2-43 志村方 ☎0492-46-2015 詩集に『とらいあんぐる』(1978),『日月行』(1981),『月光館』(1985)がある。



丈創平詩片 有無 1989年12月20日発行
著者丈創平 ©Jo Sohei 1989. Printed in Japan
発行者原満三寿
発行所株式会社エントピア
101東京都千代田区猿樂町2-2-8 ☎03-294-3617
印刷所信毎書籍印刷株式会社
製本所松栄堂製本
定価800円

落丁本・乱丁本はお取り替えます。

◀ 文創平詩片 有 無 目次

佇む	38
蓮華	36
緋	32
片々	30
燦	26
野	22
かんかん	20
日	16
曙光	12
川	10
ためこ愛染	6

みぞれ | 40

八十八夜 | 44

うたのゆくえ | 46

うたのゆくえ、ふたたび | 48

有無 | 52

ある日このとき、けれどものこと | 56

風洞の音 市村光 | 60

あとかき | 66

装画・装幀・イラストレーション／池田龍雄

丈創平詩片
有無

ためこ愛染

けれども

蘆のいっぽんを

手折るやいなや

わたくしをささえていた骨の

いっぽんいっぽんが

刹那

くずれ落ちていってしまふ思いにかられた

気高く

いちどとして

清狂であつたためしとてなかつた精神こころは

チップ材となりはて

わたくしの足もとを

ずんずん

うずめてゆくのであった

オトギリ草の汁を

ふくらはぎと亀頭にすりこんでくれば

もっと軀が軽くなれたのに

東所沢駅止まりの武蔵野線電車を

ルイスに化けて追いかけた

そ

体液は

ヴァーミリオン

沼が

ひあがった

沼の底をたなごころでたたいた

地息をかきわけてくるものは

タイコムシではない

たつぷり

にちりんのひかりを

じゅうばこにうけて

たかおの

ためこのところへ

もって行って

やってくれ

まばたきのなかまで
 ゆき過ぎたままにしていったら
 心のよりどころを
 おまえは
 失うであらう
 か
 せせらぎの
 ノウゼンカズラよ
 なぜ
 橋になつてくれない

ソノ精気凍トシテワガ途上ヲ染メ
ル

ディスタンスが道ゆきをかつてくれても
わたくしを

汗は待たない

うしろで

息をつめることをやめたのは

藍染の情念ではなく

正午のサイレン

曙光

朝明の霜の道を踏んでいる

なにかわからない

軀のなかの小さな生きものが

霜に乗りうつってゆく

サく

さく と

音が耳に還ってくる

神々しく映る霜の精の

とき さだめ
時間と運命の

おこぼれが欲しくて

サく

さく と

わたくしが呼んでしまうのだろうか
朝を迎えてまもなく

サく

さく とも

そよ ともさせないで

陽光のなかより

片山津のおかめさんが降りてきて

わたくしの股間を照らした

骨のふとさほどの光たちは

あまねく霜にも

つちくれにも

射した

子の手とつないでいた手は
どこへいった
さく